

助動詞 「つ」「ぬ」

◇活用

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
ぬ	な	に	ぬ	ぬる	ぬれ	ね
つ	て	て	つ	つる	つれ	てよ

◇接続

「つ」「ぬ」はともに**連用形接続**になる。

◇意味

① **完了**「〜た」

…動作・状態がすでに終了していることを表す。下に「過去」の助動詞を伴うことが多い。

例) 五年六年のうちに、千年や過ぎにけむ、かたへはなくなり**に**けり。(土佐日記)

(五、六年のうちに、千年が過ぎてしまったのだろうか、半分はなくなっていた。)

② **強意(確述)**「きつと〜」

…語句などを強調する役割を持つ。下に「推量」の助動詞を伴うことが多い。

例) くちをしきこと多かれど、え尽くさず。とまれかうまれ、とく破りてむ。

(残念なことが多いけれど、全部を書きつくすことはできない。とにかくにも、早く破いてしまおう)

※テキストによって3つ目の意味として「並列」が記載されていますが、ほぼでないの気にしなくて大丈夫です。

◇「ぬ」の識別

① 打消の助動詞「ず」の連体形

↓ 未然形形接続なので、上の語の活用形で判断。下が体言のことが多い。

② 完了・強意の助動詞「ぬ」の終止形

↓ 連用形接続なので、上の語の活用形で判断。

下に「過去」の助動詞が続けば「完了」、「推量」の助動詞が続けば「強意」と判断する。
どちらも下に続いていない場合は文脈から(動作が完了しているかどうか)判断する。